

経営と両立、博士号

会社経営の傍らで研究にいそしみ、医学博士に。養蜂・食品製造の秋田屋本店(岐阜市)社長の中村正さん(64)＝同市正法寺町＝が、藤田保健衛生大学大学院(愛知県豊明市)医学研究科(生化学)に10年在学。プロポリスの研究論文が審査や最終試験に合格し、学位を取得した。二足のわらじを履いての取得で、「ミツバチの無限の可能性を広げたい」と飽くなき向学心を見せている。

秋田屋本店 中村社長、プロポリス研究

大学院に10年通い取得

「時間をつくるのが大変だった」と振り返るように、社業との両立は難しかった。夜の社交を早く切り上げ、慌ただしく研究室に向かったことも。この10年では心臓の手術も受けたが、「命の大切さが分かり、医学への志が強くなった」とばねにした。

学位論文の研究では抗酸化作用などのあるプロポリスにラットの肝臓・胆道の障害を予防する効果があること

を、血液や細胞組織を検査し、データを示して明らかにした。

6日に学位記の授与式に臨んだ。在学前から数え、30年間関わるプロポリス。中村さんは医薬品化を最終目標に掲げ、今後の研究に意欲をのぞかせる。ただ「道のりは長い」といい、後進にも継承していく。「ミツバチで人々の役に立ちたい」。学位を取得し、思いはより強くなった。

(村瀬正樹)



授与された医学博士の学位記を広げる中村正さん＝岐阜市加納富士町、秋田屋本店